



医中誌検索オリエンテーション

増田 徹

I. はじめに

大阪府茨木市にある藍野大学は、医療保健学部には3学科を擁し、中央図書館は藍野大学以外に、同じ学校法人の藍野学院短期大学、藍野医療福祉専門学校との共用である。2006年8月現在、利用対象となる学生数は1,038名、教職員数は150名である。また付近には関連病院があり、その職員も利用できるようになっている。このたび本学図書館で行っている医学中央雑誌(以下医中誌)検索オリエンテーションをご紹介します。

II. 検索指導の前に

本学の検索オリエンテーションは、基本的に各学科の依頼を受けて講義時間の中で行っている。50人程度であれば、学生一人に1台の端末を使える教室があり、実際に検索してもらいながら説明することができる。ただし、パソコンに不慣れな学生もいるため、相当な時間も必要となり、なるべく1コマ90分の授業時間を2コマ連続で使わせていただくようにしている。

医中誌 Web 版は、オリエンテーションの際には臨時で同時接続数を増設してもらえるので、事前に医学中央雑誌刊行会にオリエンテーションの日時と人数を連絡しておく必要がある。

検索について、私たちは学生が何も知らないということを前提にしてオリエンテーションを進めている。事実、高校までに図書館の使い方をそれなりにでもマスターしている学生は少数である。“実際に自分で行う検索”の指導に先

立ち、あらかじめ用意したパワーポイントで資料入手までの全体像を示す。今年私がオリエンテーションで使用したパワーポイントのスライド枚数は94枚であった。手順としては、以下のようになる。

1. 図書と雑誌の違いの説明

学生は図書と雑誌の区別もつかない場合が多いので、基本的なことではあるがまずそこから説明する。例えば、図書は評価の定まった知識をわかりやすく解説したもので、雑誌は新しく生み出された知識を伝えるための情報源であること、つまり前者の例が専門書や教科書・マニュアルなどであり、後者の例が学協会誌・商業誌・紀要であることなどである。

2. 図書の検索

今から学生たちが行うことの位置づけを明確にするために、図書の検索についても説明する。コンピュータ目録の検索過程は、すべて画面が変わるごとにパワーポイントで示し、実際の検索を追っていく。ここではいくつかの異なるOPAC(藍野大学、NACSIS Webcat、国立国会図書館、茨木市立図書館、Kinokuniya BookWeb)の検索過程を示し、それぞれの特徴を説明する。検索方法においてはどれも大差がないこと、図書は検索結果と所蔵の有無が直結しているので、目的に応じてどのOPACで検索するかが重要であることを教える。所蔵を示す画面まで到達すると、今度は実際に図書が並んでいる書架の写真を見せ、請求記号の説明も行う。

3. 雑誌の検索

雑誌は文献データベースで検索したあと、さらに当該雑誌の所在を調べる必要があるため、

検索が2段階になる。何か適当なキーワードで医中誌を検索した検索結果からひとつの文献を選び、その雑誌の所蔵の有無を調べる検索過程を示す。図書同様、実際の書架の写真も見せる。雑誌の場合は、新着雑誌架と製本雑誌架とに分かれているので両方を見せ、その後雑誌を製本することについての意味も説明する。それから実際に当該論文が載っているページの写真を示し、得られる情報がどのようなものかを見せる。

4. 文献入手方法について

資料が藍野大学にない場合の文献の入手方法について説明する。例えば、他館との図書の相互貸借や雑誌論文の複写依頼について、かかる費用や時間、所蔵している大学図書館へ直接行く場合には紹介状があること、それぞれの申込方法などである。市町村立、府県立、国立国会図書館などの公共図書館についても、それぞれの役割や所蔵資料の傾向、そして何より無料で利用できることなどを説明する。

Ⅲ. 医中誌による検索

検索のオリエンテーションを進めるにあたっては、問題形式をとり、一問ごとにまず学生に検索をさせてみて、一応の検索結果が出たことを確認してから説明するようにしている。ここでは検索結果のヒット数を尋ねるなど、常に学生と意思疎通を図るようにする。

1. レクリエーションについての論文

キーワード検索をさせることが目的であるが、必ず「レクリエーションについての論文」と問題文をそのまま入力する学生が出てくる。ここでは、検索語の入力は必ず単語単位で行うことを説明する。第一問目については、検索結果の中から一つ文献を選んで、誌名・巻号・ページ数・著者・発行年・論題をすべて書いてもらい、何が書誌事項に書かれているかを把握させるとともに、正確に記述することの重要性を説明する。

2. ○○先生の論文

入力する検索語が人名でもかまわないことを示す。身近な先生の論文を検索させることで、場が盛り上がる。姓と名の間にスペースを入れる学生も何人か出てくるが、そうするとヒット件数が異なることを確認させ、検索結果がどうなっているかを示す。

3. 看護学生の喫煙についての論文

複合検索をさせる。多くの学生は各単語をスペースでつなげて正解するが、おのおのを単独で入力し、履歴をかけ合わせる方法もやってみせる。ここでも問題にとらわれず、あくまで単語だけを入力するように促す。

4. 音楽療法についての概要

「音楽療法」という語を入力させ、「絞り込み検索画面」の論文種類で、「総説」や「解説」などの項目をチェックさせる。単語をかけ合わせる方法とは別の次元で検索の絞り込みができることを教える。また論文には種類があること、とりわけ会議録について説明する。

5. 堺市で起こったO157集団発生について

このO157の集団発生が1996年に起こったことから、検索対象年をデフォルトの5年から1996年を含むものに変更させる。また単語の選択でも「集団発生」まで入力してしまわず、徐々にかけ合わせる単語を増やしていき、絞り込んでいくよう指導する。

6. 床ずれについての論文

シンプルな問題だが、ここまできると学生は何か裏があると考え、あえて「褥瘡」で検索したりする。この場合は「床ずれ」と「褥瘡」とではあまり検索結果が変わらないことを示し、シソーラスとオートマッピングについて説明する。キーワードは医中誌の作成側が文献を見て付与しており、キーワード同士の関係については細かく整理されていること、検索履歴の検索式にある「TH」と「AL」のちがいを、「シソーラス」という統制語を検索すればさまざまな同義語による検索結果のばらつきをなくすことができること、今では“オートマッピング機能”により何らかの検索語を入力すると自動的にそ

のシソーラスも検索してくれることなどを説明している。

因みに、「褥瘡」や「褥創」という語は一般的なパソコンでは変換されないこともあるので、事前に確認し、変換されなければ用語登録をしておく必要がある。

7. ひきこもりと不登校についての論文

最初に「ひきこもり」と「不登校」とは同じか違うか、関係があるかないかを学生に尋ね、それから各語を検索させて、それぞれのシソーラスが異なることを示す。さらに AND 検索を行い、これらの2語による検索結果が医中誌においてはあまり重複していない事実を示す。すなわち類義語については注意が必要であり、各語がシソーラスで統制されていることにより、逆に自分にとって必要な文献を見逃す可能性があること、医中誌ではある自然語のシソーラスはわかるが、あるシソーラスがどのような自然語をもっているかは調べることができないので、いろいろな類義語を入れて検索してみる必要があることなどを教える。

8. 「手紙によって入院患者と家族を近づけたい」—このことについての論文

これは実際に私が利用者に尋ねられた質問で、後年その利用者がこのテーマで下記のような論文を書かれた。

2005122310

【思わず膝打つ「現場の工夫」】家族 患者さん直筆の手紙「シンシアレター」を送る(解説/特集)

Author: 井上清美 (藍野花園病院)

Source: 精神看護 (1343-2761) 8 巻 2 号
Page 42-45 (2005. 03)

2006141616

患者と家族の絆を深めるために 家族とのシンシア(心のこもった)レター (原著論文)

Author: 久下裕子 (恒昭会藍野花園病院),
井上清美

Source: 日本精神科看護学会誌 (0917-4087)
46巻1号 Page 21-24 (2003. 06)

学生に実際に検索させた後、これらの論文があるかどうかを確認させる(「手紙」・「入院患者」・「家族」ではヒットしない)。日々生まれるさまざまな論文から、たった数語の恣意的なキーワードで必要なものをめれなく検索することの難しさや、検索には有効な手段よりも結果が重要で、そのためにはいろいろなキーワードを入力して検索しなければならないことを教える。

IV. 雑誌記事索引による検索

雑誌記事索引と医中誌を比較させる。検索対象年を同じにして、「夏目漱石」「介護保険」「間質性肺炎」のそれぞれについて検索してもらい、ヒット数や掲載誌、その他の違いを見てもらう。ヒット数ではもちろん「夏目漱石」は雑誌記事索引が多く、「間質性肺炎」は医中誌が多い。「介護保険」は拮抗する。収録対象誌が違うので、分野によっては必ず雑誌記事索引も検索するよう指導する。

V. 電子ジャーナル

医中誌上のリンク表示から、実際に一次資料としての電子ジャーナルにたどりつける例があることを示す。雑誌論文検索というと、ここまでできるものだと思っている学生も多いので、電子ジャーナルへのリンクについて、現状なども併せて説明する。CiNii や J-STAGE など実際に使用してみせる。

VI. 最後に

図書館員としてこういった形で学生と接することができるのはうれしいことで、毎年楽しみにしている。今後もより楽しくわかりやすいオリエンテーションを行っていきたい。